

調査結果の概要

1. 交際について

(1) 恋愛に対する考え方

恋愛に関する考えについて聞いたところ（複数回答）、日本では、「交際することで人生が豊かになる」（42.8%）が最も高く、「交際をすると相手との結婚を考える」（42.7%）もほぼ同率である。次いで「相手からアプローチがあれば考える」（34.9%）が続いている。欧州各国の結果を比較すると、各国とも「交際することで人生が豊かになる」（フランス：61.3%、スウェーデン：91.3%、イギリス：44.0%）と最も高いが、特にスウェーデンでは9割以上となっている。日本は「気になる相手には自分から積極的にアプローチをする」（20.0%）より「相手からアプローチがあれば考える」（34.9%）が高く、受け身の姿勢が強い。（表 - 1）

表 - 1 恋愛に対する考え方（複数回答）

(%)

	事を愛より先にした 先愛よりも勉強や仕	先愛よりも趣味を優	交際を考えると相手と	をいそれともかまわな	たいも恋愛をしてい	口から積極的になら	分からは積極的にアプ	が相手からアプローチ	が豊かになることで人	る恋愛は面倒だと感じ	が恋愛することに自信	金がかる	恋愛はしたいが、お	その他	わからない	回答計
日本 2015年(754人)	5 19.2	18.8	2 42.7	5.8	10.9	4 20.0	3 34.9	1 42.8	12.7	7.7	10.9	0.3	2.7	229.4		
フランス 2015年(715人)	4 18.9	8.4	3 26.4	11.0	29.8	2 15.8	5 8.4	1 61.3	1.4	7.8	3.1	1.1	4.2	197.6		
スウェーデン 2015年(700人)	14.0	8.9	3 32.9	21.9	20.0	2 37.3	4 25.7	1 91.3	17.1	1.3	3.0	1.6	0.1	275.0		
イギリス 2015年(729人)	5 10.4	1.8	3 24.8	3.4	30.7	2 13.9	4 10.0	1 44.0	4.4	8.1	8.8	1.2	4.5	166.1		

(2) 交際相手との出会いについての考え方

交際相手との出会いを求めるとしたら、どんな機会があるとよいと思うか聞いたところ(複数回答)、日本では、「友人に紹介を頼む」(58.0%)が最も高く、以下、「趣味のサークルに入る」(39.1%)、「職場の同僚や先輩に紹介を頼む」(38.1%)などの順となっている。各国の結果を比較すると、各国とも「友人に紹介を頼む」が最も高くなっている(フランス:31.2%、スウェーデン:69.9%、イギリス:52.4%)。また「婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する」の割合が、フランス:24.5%、スウェーデン:48.9%、イギリス:30.3%と高くなっているが、日本では7.0%に過ぎない。(表 - 2)

表 - 2 交際相手との出会いについての考え方 (複数回答)

(%)

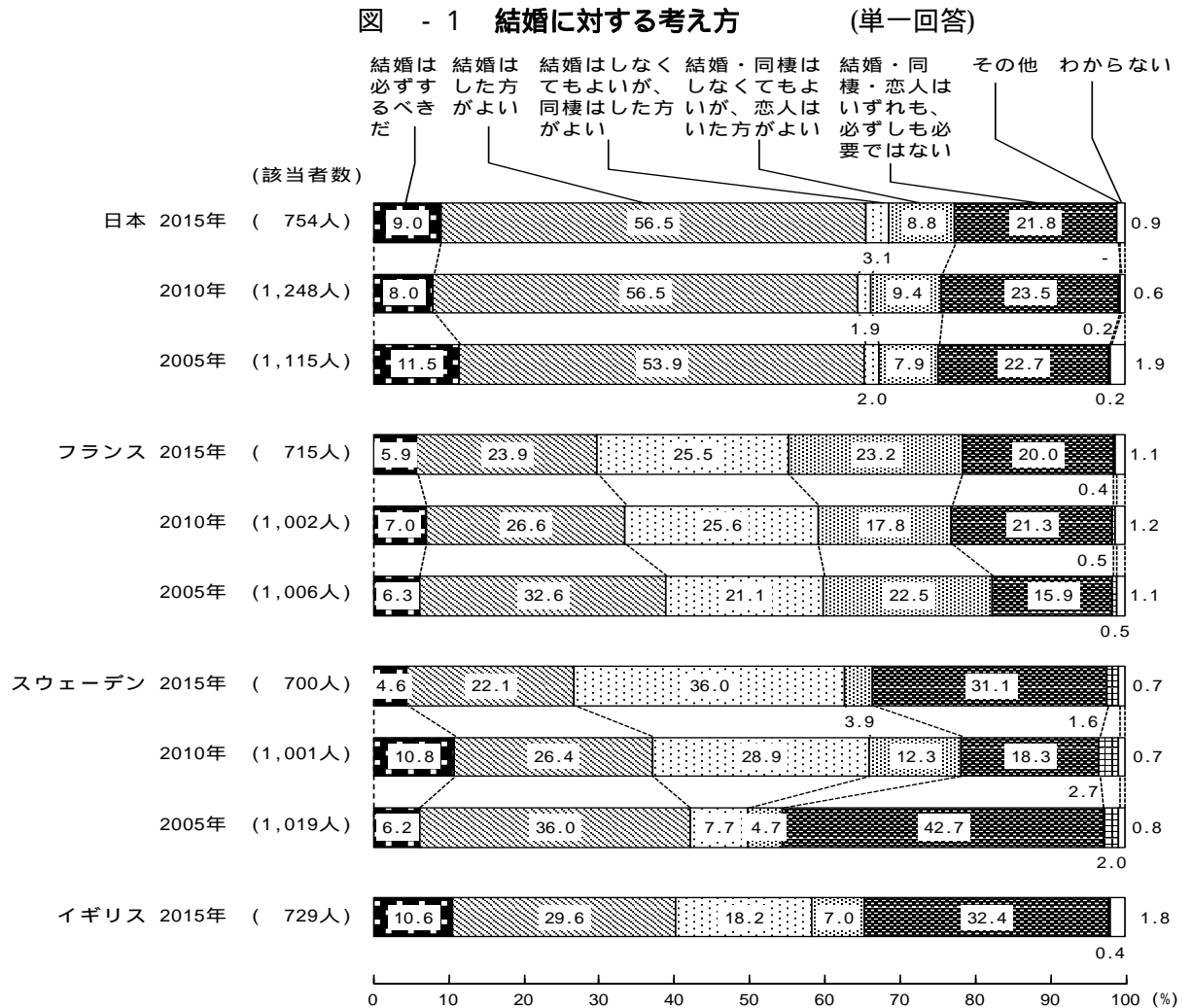
	友人に紹介を頼む	職場の同僚や先輩に紹介を頼む	合コンやパーティーに行く	婚活サイトなどのインターネットサイトやSNSを利用する	趣味のサークルに入る	資格取得や学校に通う	親や親戚に紹介を頼む	料を利用する(有料・無料問わず)	交際相手を紹介してサポートしてくれる	その他	特に何もしない	わからない	回答計
日本 2015年(754人)	58.0	38.1	30.8	7.0	39.1	14.6	4.5	4.5	0.3	9.3	0.8	206.9	
フランス 2015年(715人)	31.2	11.5	30.8	24.5	18.7	2.8	2.7	2.1	1.7	32.3	1.5	159.7	
スウェーデン 2015年(700人)	69.9	40.4	43.1	48.9	42.4	22.7	3.9	1.7	3.9	4.4	0.6	281.9	
イギリス 2015年(729人)	52.4	16.5	17.8	30.3	20.6	7.0	10.2	7.7	7.8	15.9	2.3	188.5	

2. 結婚について

(1) 結婚に対する考え方

人生における結婚や同棲の必要性に対する考え方について聞いたところ(単一回答)、日本では、「結婚はした方がよい」(56.5%)が最も高く、「結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい」は3.1%にとどまっている。前回調査の結果からは、あまり変化はみられない。

各国の結果を比較すると、欧州各国では「結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい」の割合が、日本に比べて高く(フランス:25.5%、スウェーデン:36.0%、イギリス:18.2%)、フランスとスウェーデンでは最も多数を占める。一方、イギリスでは「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」(32.4%)が最も割合が高い。また前回と比べると、フランスでは大きな変化はみられないが、スウェーデンでは「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が12.8ポイント、「結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい」が7.1ポイント増加し、「結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい」が8.4ポイント減少している。(図 - 1)



(2) 独身の理由

現在結婚をしていない人に、現在結婚していない理由を1番当てはまるものから順に3つまで聞いた。1番当てはまる理由は、日本では、「適当な相手にまだ巡り会わないから」(27.3%)が最も高く、以下、「結婚する必要性を感じないから」(15.5%)、「今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから」(14.5%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、欧州各国では「結婚する必要性を感じないから」の割合が、最も高くなっている(フランス:25.8%、スウェーデン:33.7%、イギリス:25.8%)
(表 - 1)

表 - 1 独身の理由(1番目)

(%)

	すぎるから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから
日本	5	2		3															
2015年(297人)	7.4	15.5	-	14.5	4.7	6.7	27.3	2.4	8.4	1.0	1.3	1.7	2.4	1.3	5.4				
フランス	3	1	2	5															
2015年(457人)	15.1	25.8	15.8	4.6	2.8	2.2	13.3	2.4	4.2	0.7	0.4	3.9	2.2	4.8	1.8				
スウェーデン	4	1	3																
2015年(445人)	4.7	33.7	17.5	3.4	0.4	1.6	24.3	1.1	3.6	-	0.2	2.7	4.7	1.8	0.2				
イギリス	2	1	4																
2015年(476人)	22.5	25.8	10.1	2.3	0.6	3.2	19.1	1.1	5.7	-	0.2	4.0	2.7	1.3	1.5				

2番目、3番目の理由は以下のとおりである。(表 - 2, 表 - 3)

表 - 2 独身の理由(2番目)

(%)

	すぎるから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから	結婚するから
日本				4	3	5	1												
2015年(297人)	3.7	7.4	1.0	11.1	12.5	10.1	16.5	3.0	13.1	1.3	1.0	0.7	-	4.7	13.8				
フランス				3															
2015年(457人)	3.9	19.5	20.8	9.4	3.5	5.5	7.7	1.5	6.1	1.8	0.7	4.6	1.1	6.1	7.9				
スウェーデン				4															
2015年(445人)	5	2	1	4															
イギリス				5															
2015年(476人)	3.6	17.0	12.6	8.2	1.9	7.1	11.1	2.1	9.0	0.6	0.4	2.7	1.1	0.6	21.8				

表 - 3 独身の理由（3番目）

(%)

	すぎるから	結婚する必要性を感じないから	同様のままで十分だから	業（仕事）に打ち込みたいから	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	今は、自由さや気楽さを失いたくないから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	適切な相手にまだ巡り会わないから	異性とうまく付き合えないから	経済的に余裕がないから	居る生活のために住居のめどがないから	親や周囲が結婚に同意しない（だろっ）	一生、結婚するつもりはないから	その他	特にな	わからない
日本 2015年(297人)	2.7	7.1	1.3	6.4	10.1	12.8	9.8	3.4	12.1	5.7	0.7	1.7	-	6.4	19.9	
フランス 2015年(457人)	3.7	8.3	8.1	5.9	7.7	9.8	7.0	1.8	5.9	3.3	1.3	5.9	0.7	15.1	15.5	
スウェーデン 2015年(445人)	3.6	7.4	9.2	6.5	5.8	4.7	4.5	0.9	6.5	1.6	-	3	2.9	20.7	18.4	
イギリス 2015年(476人)	3.2	6.9	5.7	4.2	4.8	7.1	10.1	0.8	12.6	1.1	1.1	2.9	1.5	1.5	36.6	

なお、現在結婚していない理由を3つ合わせて集計したところ、日本では、「適切な相手にまだ巡り会わないから」(53.5%)が最も高く、以下、「経済的に余裕がないから」(33.7%)、「今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから」(32.0%)、「結婚する必要性を感じないから」(30.0%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、欧州各国では「結婚する必要性を感じないから」の割合が、最も高くなっている（フランス：53.6%、スウェーデン：62.7%、イギリス：49.8%）。（表 - 4）

表 - 4 独身の理由（1~3番目の合計）

(%)

	すぎるから	結婚する必要性を感じないから	同様のままで十分だから	業（仕事）に打ち込みたいから	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	今は、自由さや気楽さを失いたくないから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	適切な相手にまだ巡り会わないから	異性とうまく付き合えないから	経済的に余裕がないから	居る生活のために住居のめどがないから	親や周囲が結婚に同意しない（だろっ）	一生、結婚するつもりはないから	その他	特にな	わからない	回答計
日本 2015年(297人)	13.8	30.0	2.4	32.0	27.3	29.6	53.5	8.8	33.7	8.1	3.0	4.0	2.4	9.8	5.4	263.6	
フランス 2015年(457人)	22.8	53.6	44.6	19.9	14.0	17.5	28.0	5.7	16.2	5.7	2.4	14.4	3.9	26.0	1.8	276.6	
スウェーデン 2015年(445人)	15.3	62.7	53.3	18.0	8.3	9.4	37.1	4.3	14.8	2.0	0.2	11.5	9.2	1.8	0.2	248.1	
イギリス 2015年(476人)	29.2	49.8	28.4	14.7	7.4	17.4	40.3	4.0	27.3	1.7	1.7	9.7	5.3	1.1	1.5	239.3	

(3)結婚生活について不安に感じること

結婚生活について不安に感じることを聞いたところ(複数回答)、日本では、「結婚生活にかかるお金」の割合が37.3%と最も高く、前回の28.4%より8.9ポイント増加している。以下、「お互いの親の介護」(35.9%)、「お互いの親族との付き合い」(32.6%)などの順となっている。

欧州各国の結果を比較すると、フランスでは「二人の相性」が41.4%と最も高く、前回の25.0%より16.4ポイント増加している。イギリスでも、「二人の相性」が34.4%と最も高い。スウェーデンでは「二人の間で起こる問題の解決」が35.4%と最も高く、日本の不安材料との違いがある。(表 - 5)

表 - 5 結婚生活について不安に感じること (複数回答)
(%)

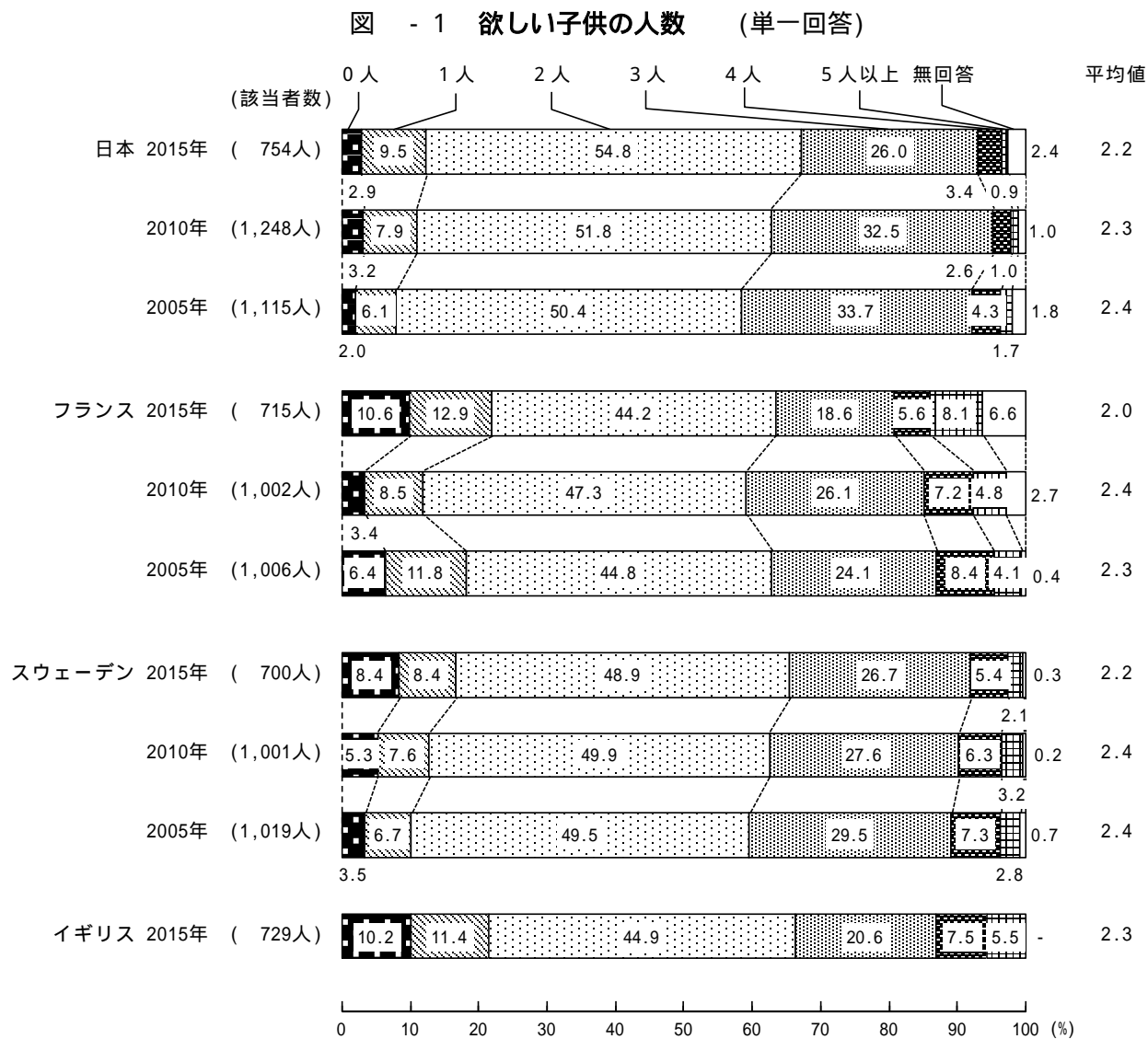
	二人の相性	二人の間で起こる問題の解決	お互いの親族との付き合い	お互いの親の介護	子供への向き合い方	お互いの前の配偶者	結婚生活にかかるお金	雇用が安定していない	自分の自由の制約	子供の育て方	子供の教育	子供ができない可能性	その他	特になし	わからない	回答計
日本																
2015年(754人)	21.6	23.6	32.6	35.9	12.5	37.3	10.1	18.3	24.8	23.5	5.0	-	8.9	0.5	254.6	
2010年(1248人)	17.0	19.7	25.5	36.9	7.5	28.4	18.7	11.9	24.9	23.1	5.0	0.3	12.5	0.4		
フランス																
2015年(715人)	41.4	33.4	23.9	8.7	15.1	23.5	17.2	23.2	26.7	13.8	6.2	0.7	16.2	0.7	250.8	
2010年(1002人)	25.0	34.8	28.9	15.4	16.5	26.6	34.4	9.0	36.3	18.5	10.8	0.9	4.9	0.3		
スウェーデン																
2015年(700人)	26.7	35.4	16.1	13.1	13.6	9.3	8.7	17.7	15.0	8.6	8.7	2.1	26.4	0.6	202.1	
2010年(1001人)	16.8	25.7	15.7	17.6	11.7	15.6	16.4	11.7	14.9	14.6	10.1	5.1	36.7	1.9		
イギリス																
2015年(729人)	34.4	25.2	18.4	6.0	8.6	23.3	8.4	17.0	17.1	10.4	4.1	1.5	28.4	0.8	203.8	

3.出産について

(1) 欲しい子供の人数

全部で何人の子供が欲しいか聞いたところ(単一回答)、日本では、平均2.2人と、前回の2.3人からやや減少している。

各国の結果を比較すると、フランス、スウェーデン共に平均人数は前回から減少している(フランス:2.4人 2.0人、スウェーデン:2.4人 2.2人)。イギリスでは、平均2.3人となっている。(図 - 1)

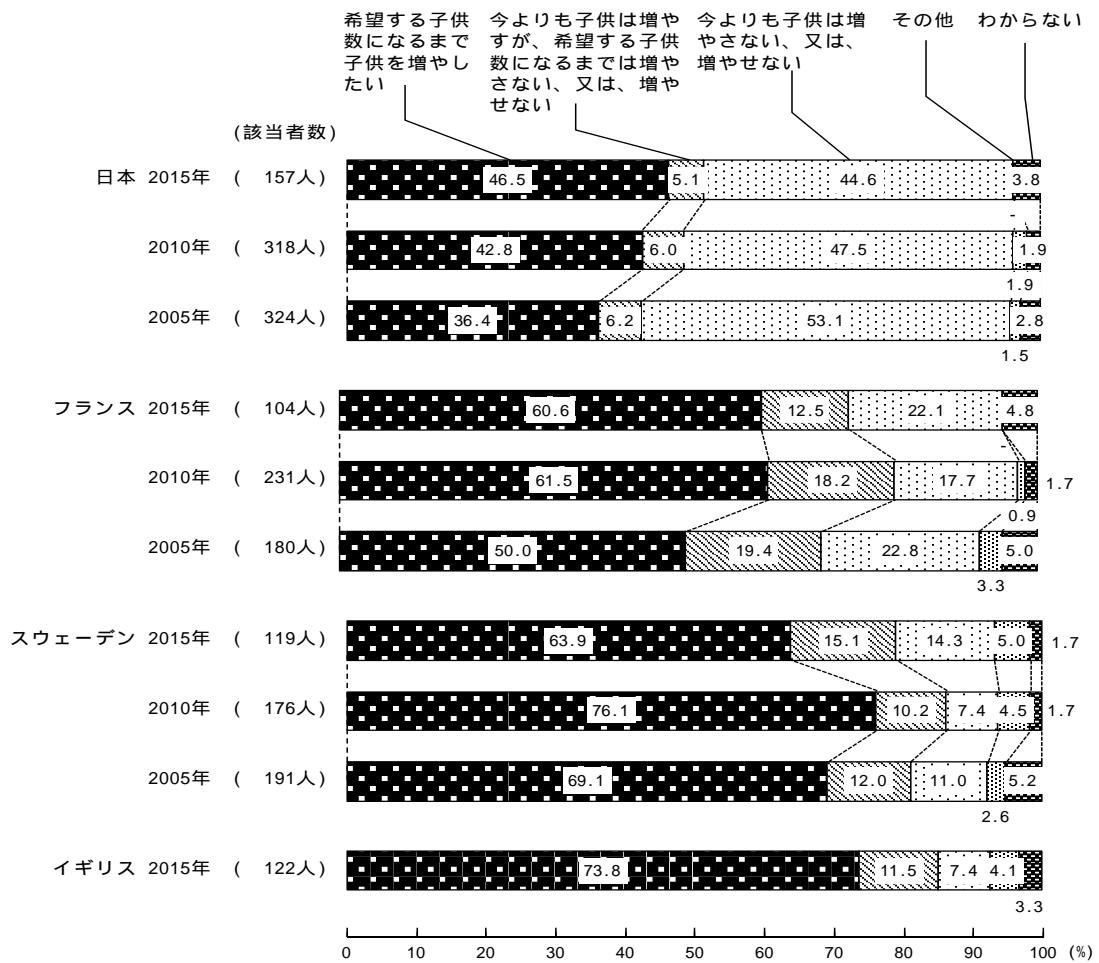


(2) 更に子供を増やしたいか

現在子供のいる人のうち、欲しい子供の人数が、実際の子供の人数より多い人に、今よりも子供を増やしたいと思うか聞いたところ(単一回答)、日本では、「希望する子供数になるまで子供を増やしたい」が46.5%となっており、過去の調査から次第に増加している。

各国の結果を比較すると、フランス、スウェーデン、イギリスでは、「希望する子供数になるまで子供を増やしたい」が6割を超えている。(図 - 2)

図 - 2 更に子供を増やしたいか (単一回答)



4.子育てについて

(1) 子育てをして良かったと思うこと

子育てをして良かったと思うことは何か聞いたところ(複数回答)、日本では、「家庭が明るくなる」が72.9%と最も高く、以下、「子育てを通じて自分も精神的に成長する」(62.7%)、「生活にはりあいができる」「子育てを通じて自分の視野が広がる」(いずれも52.8%)などの順となっている。上位項目の順位は前回調査とほぼ同じである。

各国の結果を比較すると、フランス、イギリスでは、日本と同様、「家庭が明るくなる」の割合が最も高くなっている(フランス:67.3%、イギリス:73.9%)。スウェーデンでは「子育てを通じて自分も精神的に成長する」の割合が79.9%と最も高くなっている。(表-1)

表 - 1 子育てをして良かったと思うこと (複数回答)

(%)

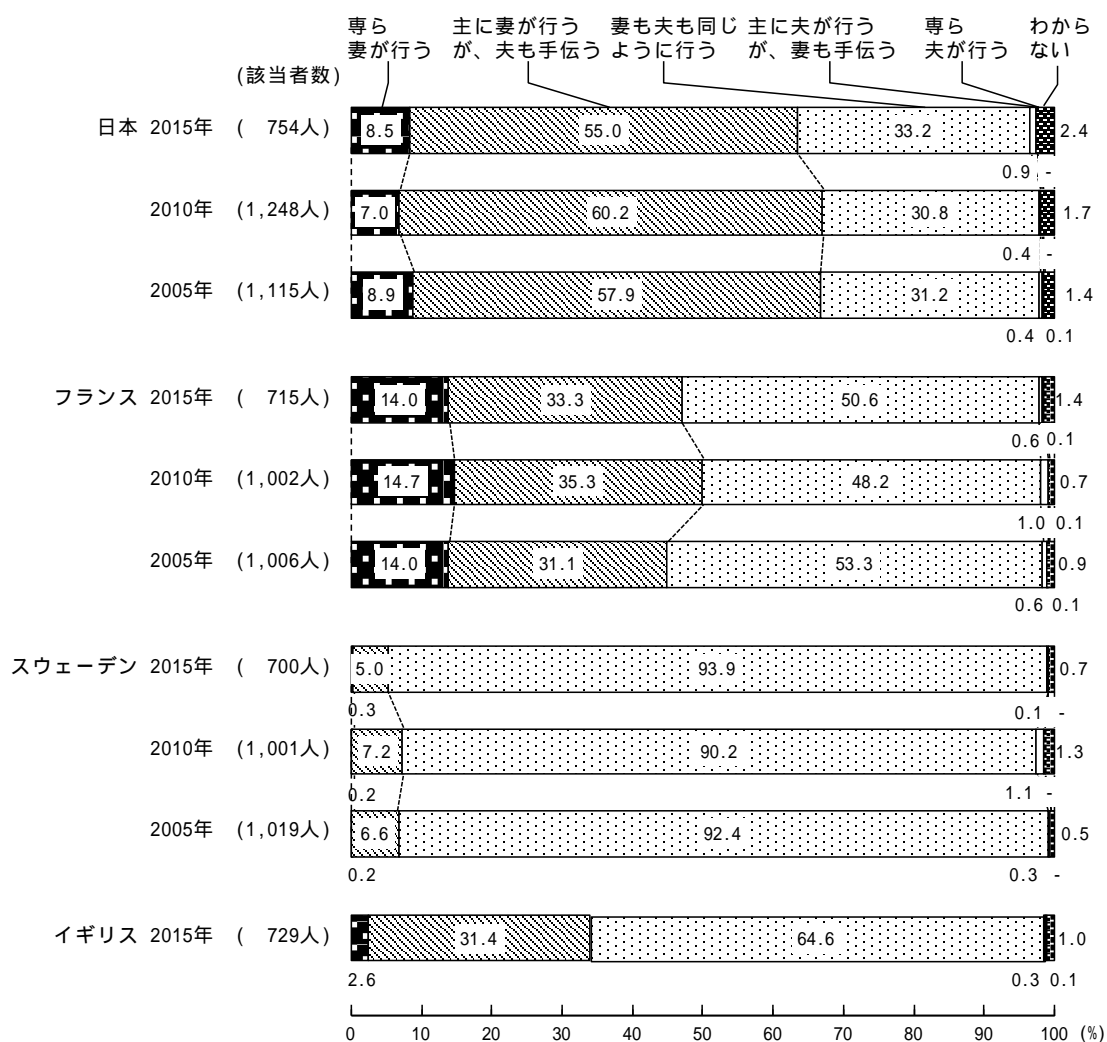
	家庭が明るくなる	身近な人が子供と接し喜ぶ	生活にはりあいができる	子育てを通じて友人が増える	子育てを通じて自分の視野が広がる	子育てを通じて自分も精神的に成長する	夫婦の愛情がより深まる	その他	良いと思わないこと	わからない	回答計
日本	1		3	5	3	2					
2015年(754人)	72.9	25.1	52.8	30.2	52.8	62.7	27.9	0.3	0.1	3.8	328.6
2010年(1248人)	1		3	5	4	2					
73.2	24.2	54.1	34.1	46.6	60.3	29.6	0.7	0.3	3.8		
2005年(1115人)	1		3	5	4	2					
76.5	24.9	58.1	38.3	49.3	60.9	31.3	0.4	1.0	3.1		
フランス	1		2		4	3	5				
2015年(715人)	67.3	24.6	58.6	11.2	40.8	50.1	28.1	0.3	4.3	0.8	286.2
2010年(1002人)	2		1		4	3	5				
56.6	15.2	62.4	6.1	37.6	52.9	29.4	0.6	1.2	0.8		
2005年(1006人)	1		2		4	3	5				
63.8	22.3	62.0	5.6	33.7	45.1	32.1	0.4	2.8	1.3		
スウェーデン	2	5	3		4	1					
2015年(700人)	72.6	52.6	59.3	29.1	53.7	79.9	37.4	1.1	0.3	3.0	389.0
2010年(1001人)	3	5	2		4	1					
58.7	47.8	63.1	36.6	50.7	69.1	44.5	2.8	1.6	7.0		
2005年(1019人)	3	5	2		4	1					
71.1	60.5	74.7	46.7	65.5	85.4	55.7	0.6	0.1	0.7		
イギリス	1		2		5	3	4				
2015年(729人)	73.9	20.6	53.9	21.5	34.4	43.8	39.1	0.4	3.4	3.7	294.8

(2) 就学前の子供の育児における妻・夫の役割

小学校入学前の子供の育児における夫・妻の役割についての考えを聞いたところ(単一回答)、日本では、「主に妻が行うが、夫も手伝う」が55.0%で過半数を占める。「妻も夫も同じように行う」は33.2%と、前回(30.8%)から大きな変化はみられない。

各国の結果を比較すると、欧州各国では「妻も夫も同じように行う」の割合は5割を超えており、スウェーデンでは93.9%と特に高くなっている。前回の調査結果からは大きな変化はみられない。(図 - 1)

図 - 1 就学前の子供の育児における夫・妻の役割 (単一回答)



(3) 突然の用事の際に、子供の面倒を誰に頼むか

突然の用事のために、子供の面倒をみるできないとき、誰に援助を頼むか聞いたところ(複数回答)、日本では、「自分の親又は配偶者の親」が85.7%と最も高く、以下、「配偶者(同棲相手を含む。以下同じ)」(46.7%)などの順となっている。

欧州各国の結果を比較すると、フランス、イギリスでは日本と同様、「自分の親又は配偶者の親」(フランス:71.6%、イギリス:74.7%)、「配偶者(同棲相手を含む。以下同じ)」(フランス:60.1%、イギリス:54.9%)の順となっている。スウェーデンでは、「配偶者(同棲相手を含む。以下同じ)」(89.3%)、「自分の親又は配偶者の親」(72.7%)の順となっている。(表 - 2)

表 - 2 突然の用事の際に、子供の面倒を誰に頼むか (複数回答)
(%)

	含む。配偶者(以下同じ)	配偶者(同棲相手を含む。以下同じ)	自分の親又は配偶者の親	いはいは自分の親又は配偶者の親	子育て仲間	近所の人	友人	自治体や民間の保育サービス	民間の保育サービス(ベビーシッター等)	設勤め先にある保育施設	その他	わからない	回答計
日本	2	1	3	4				5					
2015年(448人)	46.7	85.7	15.6	6.7	4.2	6.0	6.5	6.3	0.7	1.8	0.4	180.6	
フランス	2	1	4	5	3								
2015年(426人)	60.1	71.6	28.2	11.0	13.1	35.2	8.0	9.9	1.6	0.9	1.4	241.1	
スウェーデン	1	2	3	4	5								
2015年(366人)	89.3	72.7	52.5	21.0	6.3	32.0	21.6	11.7	2.7	2.5	0.3	312.6	
イギリス	2	1	4	5	3								
2015年(470人)	54.9	74.7	30.9	8.7	5.7	34.5	3.2	7.2	0.4	1.9	0.9	223.0	

(4) 出産休暇の取得意向

今後、出産があるとしたら、産後8週間くらいを目途に5労働日以上の出産休暇を、男性には自身を取りたいと思うか、女性には配偶者・パートナーにとってもらいたいと思うか聞いたところ(単一回答)、日本では、「思う」「やや思う」の合計の割合が58.9%となっている。性別にみると、「思う」「やや思う」の合計の割合は男性で67.5%と高くなっている。

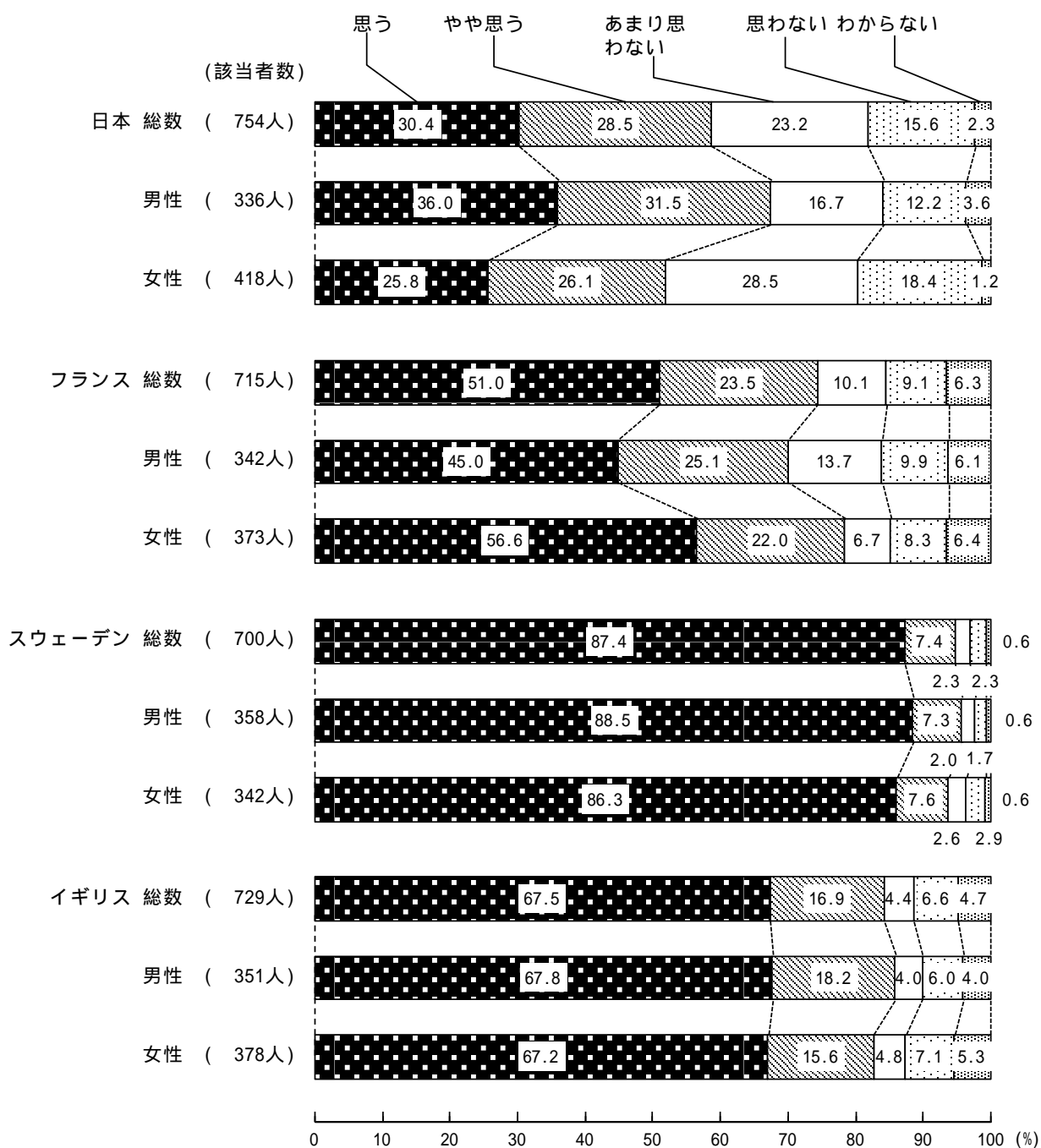
欧州各国の結果を比較すると、「思う」はスウェーデン(87.4%)、イギリス(67.5%)、フランス(51.0%)の順に高い。

フランスでは、「思う」「やや思う」の合計の割合が74.5%となっている。性別にみると、「思う」「やや思う」の合計の割合は女性で78.6%と高くなっている。

スウェーデンでは、「思う」「やや思う」の合計の割合が94.8%となっている。性別にみると、あまり差はみられない。

イギリスでは、「思う」「やや思う」の合計の割合が84.4%となっている。性別にみると、あまり差はみられない。(図 - 2)

図 - 2 出産休暇の取得意向 (単一回答)



5.ワーク・ライフ・バランス

(1) 女性の理想のライフコース

女性に、育児と仕事との関係で、理想の生き方を聞いたところ(単一回答)、日本では、「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が55.3%と最も高い。

各国の結果を比較すると、各国とも、「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が最も高くなっている(フランス:35.9%、スウェーデン:60.2%、イギリス:36.5%)が、フランスでは、前回(42.6%)から6.7ポイント減少し、スウェーデンでは前回(26.3%)から33.9ポイント増加している。(表 - 1)

表 - 1 女性の理想のライフコース <女性> (単一回答)
(%)

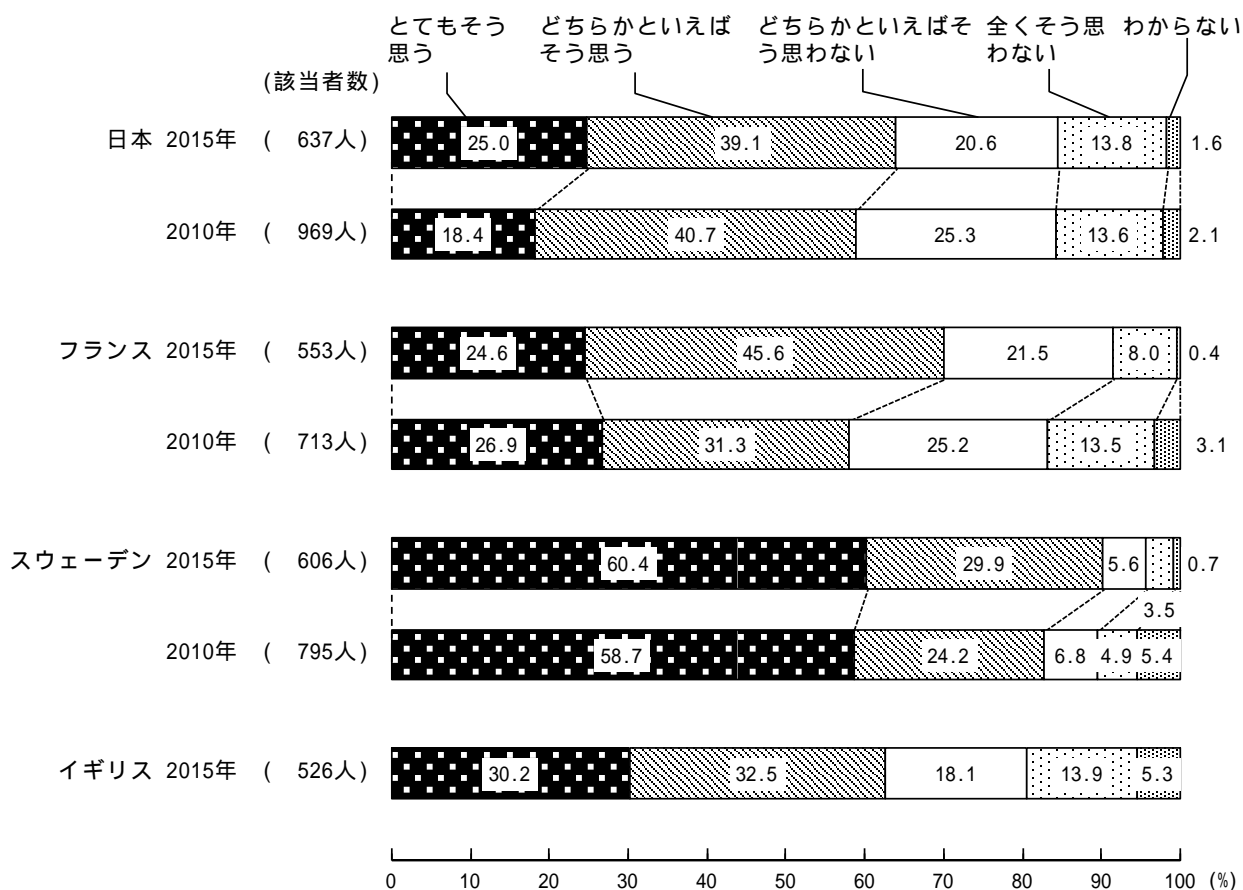
	働き婚続もけ出産もせず、	ける出産しないので働き続	続成出に長する関係がなく子供	を成出を変長えにるが、子供	のん出の手退産が職を離れるが、子供	に出産を専念する	いく、出産の後は無関係な	その他	わからない	
日本	2015年(418人)	2.4	1.4	12.7	55.3	18.9	6.0	2.4	-	1.0
	2010年(709人)	1.1	0.7	10.6	60.1	22.1	3.2	1.0	0.1	1.0
	2005年(614人)	0.3	0.5	8.1	58.8	27.0	3.6	1.1	0.2	0.3
フランス	2015年(373人)	4.8	3.5	18.5	35.9	28.2	3.2	3.8	-	2.1
	2010年(542人)	2.4	2.6	17.7	42.6	29.3	3.9	0.6	0.4	0.6
	2005年(503人)	2.3	1.3	12.2	40.3	34.7	4.7	1.4	1.2	2.0
スウェーデン	2015年(342人)	4.4	3.2	19.6	60.2	10.5	-	-	1.2	0.9
	2010年(491人)	3.5	2.0	44.2	26.3	14.7	1.8	0.2	2.4	4.9
	2005年(524人)	0.6	1.0	58.0	19.5	16.2	-	-	3.1	1.7
イギリス	2015年(378人)	2.4	2.9	24.6	36.5	24.6	5.6	0.5	0.5	2.4

(2) 仕事と育児を両立しやすい職場かどうか

現在仕事をしている方に、仕事と育児を両立しやすい職場か聞いたところ(単一回答)、日本では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した「そう思う」の割合は64.1%と、前回(59.1%)から5ポイント高くなっている。

欧州各国の結果を比較すると、「とてもそう思う」はスウェーデンでは60.4%を占め、他国を大きく上回っている。また、フランス、スウェーデンでは、「そう思う」の割合(フランス:70.2%、スウェーデン:90.3%)は、前回(フランス:58.2%、スウェーデン:82.9%)から高くなっている。イギリスでは「そう思う」の割合は62.7%と、日本と同程度となっている。(図 - 1)

図 - 1 仕事と育児を両立しやすい職場かどうか (単一回答)



6.社会的支援

(1) 結婚を希望する人に対する施策として何が重要か

結婚を希望する人を支援する施策として何が重要だと思うか聞いたところ(複数回答)、日本では、「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」が57.0%と最も高く、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」(56.0%)もほぼ同率である。次いで「雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること」(43.6%)が続いている。

各国の結果を比較すると、フランス、イギリスでは、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」が最も高くなっている(フランス:47.0%、イギリス:54.5%)。スウェーデンでは、「雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること」が61.7%と最も高くなっている。(表 - 1)

表 - 1 結婚を希望する人に対する施策として何が重要か (複数回答)
(%)

	提供 する こと	安定 した 雇用 機会 を	雇用 対策 をも つて、	うし 支 援 す る こ と	賃 金 を 上 げ て、 安 定	う こ と	資 金 貸 与 や 住 宅 補 助 を す る	結 婚 と 住 宅 に 対 す る	出 会 い の 場 を 提 供 す る	こ と	結 婚 す る た く さ の 税 制 を 用 意 す る	場 境 の 充 実	づ け ら れ る よ う な 働 き づ き	夫 婦 が と も に 働 き づ き	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	回 答 計	
日本		3		2									1						
2015年(754人)		43.6		56.0					15.0		24.9		57.0		0.4	1.6	0.8		234.9
フランス		3		1							2								
2015年(715人)		38.3		47.0					8.0		44.5		30.3		0.3	11.5	3.9		212.0
スウェーデン		1		3									2						
2015年(700人)		61.7		24.4			4.1		5.0		16.9		37.1		2.4	12.9	4.9		169.4
イギリス		2		1									3						
2015年(729人)		47.7		54.5			23.2		3.7		38.8		45.4		0.5	3.0	4.3		221.1

(2) 育児を支援する施策として何が重要か

育児を支援する施策として何が重要だと思うか聞いたところ(複数回答)、日本では、「教育費の支援、軽減」が64.1%と最も高く、以下、「小児医療の充実」(48.3%)、「雇用の安定」(39.7%)などの順となっている。

各国の結果を比較すると、フランスでは、「雇用の安定」が47.0%と最も高く、以下、「教育費の支援、軽減」(40.0%)、「育児休業中の所得保障の充実」(35.1%)などの順となっている。スウェーデンでは、「育児休業や短時間勤務などの制度利用がキャリアのハンデとならないための取組」が69.1%と最も高く、以下、「ひとり親家庭への支援の充実」(62.6%)、「出産・育児による退職後の職場復帰の保障の充実」(62.3%)などの順となっている。イギリスでは、「雇用の安定」が51.3%と最も高く、以下、「企業のワーク・ライフ・バランス政策を充実させること」(48.1%)、「出産・育児による退職後の職場復帰の保障の充実」(44.0%)などの順となっている。(表 - 2)

表 - 2 育児を支援する施策として何が重要か (複数回答)

(%)

	各 自 の サ ー ビ ス に 合 わ せ た 多 数	教 育 費 の 支 援 、 軽 減	小 児 医 療 の 充 実	公 園 な ど 、 子 供 を 安 心 し て 育 て ら れ る 環 境 の 整 備	雇 用 の 安 定	企 業 の ワ ー ク ・ ラ イ フ ・ バ ラン ス 政 策 を 充 実 さ せ る こ と	男 性 の 育 児 休 業 の 取 得 促 進	育 児 休 業 中 の 所 得 保 障 の 充 実	育 児 休 業 や 短 時 間 勤 務 な ど の 制 度 利 用 が キ ャ リ ア の ハ ン デ と な ら な い た め の 取 組	出 産 ・ 育 児 に よ る 休 職 後 の 職 場 復 帰 の 保 障 の 充 実
日本 2015年(754人)	19.2	64.1 ¹	48.3 ²	29.2	39.7 ³	22.8	24.9	26.9	26.0	37.3 ⁴
フランス 2015年(715人)	18.5	40.0 ²	24.3	25.0	47.0 ¹	27.6	21.3	35.1 ³	31.7	34.8 ⁴
スウェーデン 2015年(700人)	24.7	24.4	31.9	37.3	40.7	29.4	60.1 ⁴	42.9	69.1 ¹	62.3 ³
イギリス 2015年(729人)	38.0 ⁵	33.6	29.1	34.0	51.3 ¹	48.1 ²	38.1 ⁴	25.9	28.5	44.0 ³
	制 す 上 の た た め の 措 置	実 一 つ の 親 家 庭 へ の 支 援 の 充	へ 3 の 人 以 上 の 子 供 が い る 世 帯	の 子 供 の い る 世 帯 へ の 住 宅 費	び 子 供 を 生 み 育 て る こ と の 喜	保 ど 子 供 に 対 し て お け る 犯 罪 治 安 の 防 止	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	回 答 計
日本 2015年(754人)	34.5 ⁵	30.1	24.9	28.5	14.7	31.7	0.4	0.7	0.8	504.6
フランス 2015年(715人)	34.1 ⁵	28.0	21.7	31.9	13.0	26.9	0.7	2.1	2.1	465.7
スウェーデン 2015年(700人)	15.9	62.6 ²	13.3	20.1	32.6	59.7 ⁵	1.4	1.4	0.1	630.0
イギリス 2015年(729人)	37.2	35.8	19.3	34.4	22.2	32.6	0.3	0.7	1.6	555.0